

## 地域のお便り

### 愛されて10周年。富士山静岡空港の将来に期待!



6月4日、富士山静岡空港は開港10周年を迎えました。これまで様々な課題を乗り越えながらも、近年は着実に利用者を伸ばし続け、ようやく昨年度は目標の70万人を突破!皆様のご愛顧のおかげです。

ただ、本領発揮はこれからです。昨年12月に旅客ターミナルビルがリニューアルオープンされたことに続き、この4月からは運営権者が「三菱地所・東急電鉄グループ」に移され、多彩なノウハウをもって、さらなる活性化が期待される所。静岡県の空の玄関口として、ますますの飛躍を応援していきたいと思っております!

## 目指せ日本一!「eスポーツ王国しずおか」への道

昨年の流行語大賞にもノミネートされた「eスポーツ」。静岡県内では今年、日本eスポーツ連合(JeSU)の正式な下部組織となる「静岡県eスポーツ連合」が発足し、私もその役員として活動しています。5月4日にはグランシップで「戦頂」、6月1日にはイオンモール浜松志都呂店で「ぶよぶよeスポーツ」が開かれるなど、最近イベントが目白押しですが、今年の最大の目標は、秋の茨城国体で静岡県代表選手が優秀な成績を収めること!

eスポーツを健全に普及させ、産業醸成や人材育成を通して地域を活性化させる。そんなお手伝いができるよう、今後も進取の精神で走っていききたいと思います。



## 第18号の発行にあたり

今年も暑い夏になりそうですね。4月の統一地方選挙以来、新元号「令和」の幕開け、浜松まつり、6月定例会、そして参議院議員選挙と息つく間もなく走ってきましたが、これからが夏本番。その暑さに負けぬよう、変わらぬ「本気」で頑張ります!

また、皆様にご好評頂きながら発行している「しんのすけ通信」。第18号は原点回帰の従来バージョンでお届けしましたが、次号以降は、皆さまのニーズを踏まえた充実多彩な内容でお送りしてまいります。是非、楽しみにしてください!



### 山崎真之輔プロフィール

- ◆ 37歳三児の父親
- ◆ 浜松北高等学校、名古屋大学法学部卒業
- ◆ 元衆議院議員 鈴木康友(現浜松市長)秘書
- ◆ 浜松市議会議員(2期6年間)
- ◆ 静岡県議会議員(3期目)
- ◆ 所属党派:ふじのくに県民クラブ
- ◆ 所属委員会:産業委員会 副委員長、子ども健全育成推進特別委員会
- ◆ 趣味:スポーツ全般、日本舞踊(花柳流)、読書、カラオケ、ボードゲーム、eスポーツ



HPはこちらから

## しんのすけ伝言板

### ● 9月定例会で一般質問に立ちます!

暑い夏をぐり抜けると、9月17日から9月定例会が始まります。私も、改選後最初の一般質問を行う予定ですので、ぜひご注目ください。その後は、10月に決算特別委員会、さらに12月定例会と続きます。皆様からのご意見をお待ちしております!

### ● エコパスタジアムでeスポーツ選手権!

7月20日、茨城国体に向けた静岡県代表決定戦(ウイニングイレブン)が、なんとエコパスタジアムで行われます。しかも、Jリーグのジュビロ戦の前座ということで盛況間違いなし。リアルとバーチャルの融合が始まっています。好ゲームを期待しましょう!



## 浜松市と静岡県を結ぶ!!若きカジュアル政治マガジン\*

静岡県議会議員

# 山崎しんのすけ 第18号 通信

2019年7月発行

本気が違う!!



山崎しんのすけ事務所 | 〒430-0852 浜松市中区領家1-11-21 TEL.053-461-1020 FAX.053-465-6982  
ホームページ→ <http://www.shin-sk.net/> 山崎しんのすけ 検索



## 再選! 充実の3期目へ



去る4月の統一地方選挙では、多くの方の声援に支えられ、無事県政3期目の切符を手にすることができました。また、今回は目標としていた20,000票にも到達することができ、嬉しさとともに、その重みを深く噛みしめているところです。

私も気づけば、12年の議員経験を有する中堅どころとなりました。これからは、生活に身近なこともスケールの大きなことも、選挙時に訴えてきた「これまでよりも、誰よりも違う本気」で、取り組んで参りたいと思います。どうぞ、引き続きのご指導を宜しくお願い致します。



## 新生「ふじのくに県民クラブ」を目指して!

改選を経て、私が所属する党派「ふじのくに県民クラブ」は、19名での船出となりました。党派を超えて集まる私たちが存在感を発揮していくためには、不断のブランディング努力が欠かせません。古臭い体質を改め、県民のニーズに真摯に向き合い、将来を見据えた政策を実現していく。そんな党派にしていかなければならないと思っています。

今年度は、私も政調副会長という役目を頂きました。若さと経験を活かし、新生「ふじのくに県民クラブ」を創ってまいります!



# 元気<sup>!</sup>を創出する源。 産業委員会に所属しました。

委員長を務めた昨年の建設委員会から、今年は産業委員会に移ることになりました。この委員会では、既存の産業を支援するのはもちろんのこと、新産業の育成、エネルギー政策、産業人材確保、農業・林業・水産業の振興など、静岡県経済の元気を創出する役割を担う大切な位置づけとなります。どうぞ一年間、ご注目とご意見をお願い致します！なお、6月定例会では、本県が誇る大切な資源である「ウナギ」について質問しました。今日のウナギの置かれている状況を、できるだけ分かりやすく解説します↓

## Q ウナギが食べられなくなる!?

食卓に上がるウナギの99%がシラスウナギを採捕してからの養殖だが、そのシラスウナギの採れ高が減少しているから。



## Q なぜ減ってきているの?

シラスウナギ自体の減少という自然界の原因、密漁・密売されている可能性も高い。



## Q 県は何の対策もしていないの?

シラスウナギの採捕については、許可を受けた者にしか行えないことになっているし、採捕期間や許可数量も決められている。また、流通透明化対策も強化したところ。

でも、取り締まりが十分にできているとは言い難い。  
シラスウナギは密売の方が値が高い。正規ルートに真面目に卸す方々に不公平感を与えないように、対策を強化する必要がある。

それが、ウナギ資源の保護と、美味しくいただける仕組みに繋がる。  
加えて、シラスウナギの人工生産技術の開発研究にも期待!



## 視察<sup>!</sup>報告

# 高校における発達障がい支援の先進地



6月初旬、神奈川県2つの県立高校(厚木西高校・釜利谷高校)を視察してきました。  
厚木西高校は、インクルーシブ教育実践推進校であり、県内に3校ある中の一つ。こちらは、入試をクリアした一般の生徒と、面接のみで入学できる知的障がい等を抱えた生徒と一緒に学ぶ全日制の普通科高校。

釜利谷高校は、クリエイティブスクールと呼ばれていて、県内に5校存在する。こちらは、不登校や外国籍などの理由で中学までに自分の力が発揮できなかった生徒が、学び直しやキャリアを形成していくための学校で、同じく学力検査無しで入学できる全日制の普通科高校という位置づけ。

両校のシステムは、発達障がい等を抱えた生徒の高校選択の幅を大きく広げるもので、静岡県にも全国にもほとんど存在しない先進的な取り組み。また、共通しているのは、教職員やサポートとして関わる大人たちに共生社会の理念が深く浸透していること。そして、学校や授業のユニバーサルデザイン化が徹底していること。これにより、一般生徒の学力も上がってきているとの報告もあり、本県にとっても、参考とすべき箇所がいくつも確認できました。

必ず、今後の議会活動に生かしていきたいと思っております。



# 救いたい…子どもたちの命と未来 ～静岡県子どもの安全確保緊急対策アクションが始動!～

思い出すのも辛い出来事ですが、今年5月に起こった大津市での事故や川崎市での事件では、何の罪もない小さな命が一瞬にして奪われました。私も、同じ子を持つ親の身として、深い悲しみと無力感を抱かずにはられません。



しかし、こうした事件事故を未然に防ぐために、あるいは起きたとしても、その被害を最小限に抑えるために、私たちにできることは沢山あります! 県では、5月末から緊急対策会議を設け、6月初旬には「静岡県子どもの安全確保緊急対策アクション(県庁版)」を取りまとめ、それを受けた県議会でも、速やかに6月定例会で補正予算案を可決しました。

以下に、その概要をお示し致します。

## 取組体制

オール静岡  
(県はもちろん、市町や民間等を巻き込んで実施)

## 基本方針

1. 同様の事件が県内でも起きるといった危機感を共有する
2. これまでの対策を踏まえつつ、現状よりもさらに広い視野で考える
3. できることから着手し、スピード感を持って取り組む

## 主な施策

- 1 小学生を対象とした体験型防犯講座「あぶトレ!」を追加実施。(130回→230回)



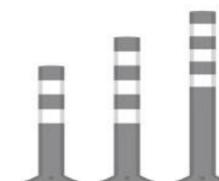
- 2 児童福祉施設や特別支援学校、スクールバスにスプレーやドライブレコーダー、拡声機などの防犯用品を整備。



- 3 犯罪の発生件数が多い地区の街頭防犯カメラを試行的に増設。(県内15台→45台)



- 4 通学路や通園路などに、ポストコーンの設置や路肩のカラー舗装を実施。



# 真の目 ～防犯の基本も「自助・共助・公助」～

犯罪に遭遇した時に、子ども達はどのような行動をとるのでしょうか? 2010年の調査では、およそ半数が「走って逃げた」と回答していますが、「何もできなかった」という回答者も約20%存在しています。つまり、防犯カメラの設置(公助)だけではなく、地域の見守り活動(共助)だけでもなく、子ども達自身のスキルアップ(自助)、その全てが命を守るためには欠かせないということです。

防災において、この「自助・共助・公助」は基本中の基本ですが、防犯も全く同じ! 静岡県は、「あぶトレ!」という実践型の訓練を行っている全国的にも進んだ地域ですが、このような取組をオール静岡で更に浸透させ、防犯力の向上を通じ、子ども達の命と未来、そして笑顔を守っていききたいですね!

